

キアゲハは北海道から屋久島までの分布で、それより南では沖縄で偶発記録がある。幼虫は他の *Papilio* 属が食べないセリ科植物を主食とし、野菜畑のニンジン、ミツバ、パセリ、セロリなどを食べる。たまに食卓上のパセリに卵がついていることがあるが、むしろ無農薬栽培だと安心していいだろう。山間部ではシシウドなどで発生する。

1998年西畑で妻と娘が育てていたハーブ：フェネルがクリーム色の花をつけた頃に求蜜飛来している姿をきれいだと思っていたら、このハーブがキアゲハの食草に適合していたらしく母蝶が次々と見境のない産卵をして、おかげで幼虫は柔らかい葉っぱ



をすっかり食い尽くしたあと一部は庭の他の場所に植えてあったパセリまでも丸裸とする始末。残る幼虫がどうするのかと観察しているとなんと茎の部分をかじり取るように少しずつ食って、あちこちで自然蛹となり次々ときれいな蝶となって飛び立っていったのには感心した。数日後、まだ日暮れまでには大分時間があるというのになぜか庭のライラックの葉上に舞い戻り静止する個体が出て、どうした

のかなと Video 撮影をしていたら、やがて天候が急変、嵐を思わせる強い風を伴った雨となってしまった。ライラックは大きく揺さぶられキアゲハは強い雨風にしばらく耐えていたがいつのまにか安全な場所へ移動したらしく元の葉上から消えていた。発生場所である我が家の庭に戻ってくれたことをうれしく思う一方で、天候の悪化をいち早く察したキアゲハのすぐれた本能を見せつけられた出来事でもあった。



Apr. 13, 1999 高砂市西畑自然羽化



翅だけの標本図は、昨年8月加古川市で開催された「青少年のための科学の祭典」で、子供たち

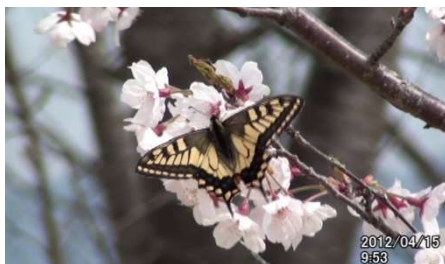
を対象にフエルアルバムを使う標本作製法を伝授した際のキアゲハの見本である。胴体やアンテナがないのは寂しいが、ひと目で翅の表裏がみられ、胴体のない分腐る心配がなく専用の高価な標本箱もいらぬなど、簡易長期保存法としてお勧めだ。子供たちには多様な見本標本を参考としたアルバム作りをしてもらっているが、鮮やかな色彩のキアゲハとアオスジアゲハが欲しいという子供が多く、今後もこうした企画を継続するとしたら、相当数の同種標本の

確保が必要となり悩むところ。

筆者は、標本箱空間を余計に占有する大型のアゲハ類のほとんどをこのアルバム形式に切り替えている。アゲハ属紹介には、自然界での撮影記録があまりないこともあって、アルバム標本写真を使うことが多くなるが、今後、自然状態での撮影記録をとって、改訂していきたい。

Papilio machaon hippocratesAug 8, 1974
長野県山嵐原
キアゲハ♀
by M. ShimazakiJune 30, 1971
高知県北村清水
キアゲハ♀
by Biwako Shimazaki

2012 年以降に撮影したキアゲハの画像記録。



June 26, 2015 豊岡市の来日岳山頂部で

太陽光が届く位置が変わるのにしたがってヒサマツミドリシジミのテリ張り場所が移るので



は、と探索する過程で目についたキアゲハの交尾個体を初記録。

Sep. 30, 2017 つい秋風に誘われて

ぬけるような青空の初秋、秋風に誘われて加古川河川敷へとチョウタイム・サイクリング。カナムグラが茂る場所まで行って見て、秋型のキタテハはまだ発生していないことを確認したところでキアゲハが飛んでくる。動体視力を発揮してネット一振捕獲すると、尾状突起が欠けたオス



個体なので証拠記録を撮りつつ放してやる。正直、青空を背景にここまできれいに飛び立つ様子が記録できているとは想定外。

Apr. 15, 2020 岩山の尾根道で

尾根筋を蝶道として飛び交うアゲハとキアゲハを眺めていると、キアゲハが小道から離れたツツジの花が咲く場所へと寄り道をする気配。急ぎ走りよると案の定吸蜜をしていたが、長居をせずに飛び立ってしまう。その様子のビデオ記録にはいくらかの飛翔記録がとれている。

